
モコモコの道

神崎 優太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モコモコの道

【Nコード】

N8150G

【作者名】

神崎 優太

【あらすじ】

ある朝、少年ルノはモコモコした白い道を見つけます。子供達は、その道がどこに続いているのか辿っていき、やがて一人の男に出会いました。彼は言います。この道は「何も無い国」へと続く道だと……。

ルノは、その朝、とても嫌な気分が目が覚めました。

「あんなにおこらなくなつて、いいのに……」

昨日、宿題をさぼったばかりに、お母さんにこつぴどくしかられたからです。

ぼーとした頭で、窓の外をながめていると、遠くに新しい道が
できているのが見えました。その真っ白でへんてこな道は地平線の
向こうまで、ずっと続いています。

<あれはなんだろう？>

ルノはベッドから飛び出し、その白い道をたどってみることに
しました。

近づく、それはモコモコした白い毛のようなもので、できてい
ることがわかりました。

「フワフワのモコモコだ！」

ルノはうれしくなつて、モコモコの上で飛びはねたり、ゴロゴロ
と寝転んだり。

そして少しして、遠くに別な白い道があることに気がつきました。
ルノと同じ背丈の少年が歩いているのも見えます。

その道は、やがてルノの道と交わり、一本の道へと合流します。

「やあ！ この道はどこへ続いているんだい？」

二人は、同じ質問をして、一緒に首をかしげます。

しばらくいっしょに歩いていくと、また別なモコモコの道が合流
し、そこにも別な少年の姿がありました。

「やあ！ この道はどこへ続いているんだい？」

何度も合流をくり返し、いまや、子供達の数は数十人にもなつて
いました。

そうして、何時間歩き続けた頃でしょうか、道の先に、一人の男

の姿が見えました。

男は歩きながら、羊をまるでぶたの丸焼きでもつくるかのように、棒につるしてくるくる回し、毛をバリカンでそっていきます。そして、地面に落ちた毛がモコモコの道になっていました。不思議なことに羊の毛はそってもそっても、また生えてきます。

「おじさん！ この道はどこへいくの？」

少年達の一人が男にたずねます。

「何もない国へとつづく道だよ」

男は答えます。

「何もない国にはなにがあるの？」

今度は、少女がたずねました。

「何もない国には、なーんにもないんだよ。宿題も、お片づけも。君達をしかる大人もいないのさ」

子供達は大喜び。

「何もない国は子供達の樂園！ さあいざ行かん、何もない国へ！」

子供達の行列は続きます。

いまや、白い道は子供達であふれ、地平線のかなたまで行列が続いていました。

どの子の顔も喜びでいっぱいです。

でも、ルノだけは、少しこまった顔をしていました。ルノは男にたずねます。

「おじさん！ おじさん！ 何もない国には、お父さんもお母さんもいないの？」

「そうさ！ だから、夜更かしも朝寝坊も、おねしょだってOKさ！」
子供達はまたしても大喜び。

だけど、ルノだけはちがいました。

「お父さんとお母さんに会いたい……」

ルノは立ち止まりました。

そして、シクシクと泣き始めます。

「やーい！ 泣き虫、ルノ！ 弱虫、ルノ！」

みんなは、そういつてルノをからかい、そして行ってしまいました。

「みんな、行っちゃだめだよ！ 村へ帰ろうよ」

誰一人、ルノの話を聞く者はいませんでした。

ルノは泣きながら、一人、もと来た道を戻り始めます。

ルノが村に帰ると、大人たちがおおさわぎしていました。

村の子供達がみんな、いなくなってしまったからです。

少年はみんなが帰ってくるのを待ちました。

だけど、何日たっても誰一人もどってきません。

1年がたち、3年がすぎ、大人たちはみんな、その出来事をわすれてしまいました。

ルノはそれでも待ちつづけました。

みなで一緒に帰らなかったことを、一人だけ戻ってしまったことを、とても後悔していたのです。

そして、15年目のある日、ぼろぼろの服を着て、ヒゲやかみが伸びほうだいの大人たちが何十人も村にあらわれました。

きたない身なりをした大人たちはまるで、子供のようにわんわんと泣きはじめます。

「ぼくたちは、みんなずっと歩いてた……ずっとずっと歩いていたんだ」

そこに一人の少年があらわれます。

「ルノ！ ルノだよね?! なんて君は子供のままで……」

大人たちは口々にたずねます。

「……死んだ……死んだ父さんからの伝言を伝えるよ」

少年は静かにつづけます。

「ここがみんなの国だよ。宿題もお片づけも、みんなをしかつくれる大人も、なんでもある大切な場所だよ」

「みんな、おかえり」そう言う少年の足元によりそって、大人たちはまた泣きました。

「子供の樂園なんて、どこにもなかった……何もない国なんて、初めからなかったんだ——」

（後書き）

少々後味の悪い話ですが、たまにはこんなお話しもありかな、と…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8150g/>

モコモコの道

2010年10月12日06時01分発行